

# Licht Kreis 高田三郎作品による リヒトクライス第21回演奏会

確かに、私の作品は私の願いそのものだ。それは毎日の願いの結晶であり、それらの一連は私の願いの一連なのであり、それらの系列は私の願いの歴史なのだ。そして私は今更のように心に思うのである。人とはこの世では「願うもの」であり、「願い続けながら生きるもの」なのだ。そして作品とは、作者が何を願って生きたかの軌跡であると。そしてまた、楽譜の中にとじ込められている音楽というものは、演奏される度にいのちを得、その「願い」をその場にそのままに生き返らせつつこの世に花開き続けてくれるものなのだ。

高田三郎  
「くいなは飛ばずに」より



高田三郎  
(作曲家 1913-2000)

人間の愚かさと出口の見えないこの混迷の中であって、地上に真の覚醒をもたらすための音楽を、と常に願い続けた師の志をしなやかに引き継ぎ、その揺らめく灯火を手にかざし、まもりつつ進む人々。その歌声はいま、聴く人々の心に確かに引き継がれます。一つ一つの灯火は小さくても、そこにはいつも天にささげられた大きな〈光の輪〉ができる。私たちのリヒトクライス！まさにこれは〈希望〉です。涙が涸れるほど歌ってください。涙が涸れるほど聴きましょう。まさにこれは〈仕事〉です。自分は誰であったのかを、間違いなく思い出すための……。

高野喜久雄（詩人）  
「リヒトクライス第10回記念演奏会プログラム」より

## リヒトクライス

混声合唱団コーロ・ソフィア／女声合唱団コーロ・コスモス／しおさい  
大井しらゆりコーラス／筑波大学混声合唱団／「水のいのち」の輪

1992年、鈴木茂明の指揮する5団体が高田三郎作品の精神と芸術性に共鳴して結成。以来、2000年に帰天されるまで毎年作曲者自身の指導を受け、高田作品の個展としての演奏会を開催し、21回目を迎える。「リヒト」はドイツ語で「光」を、「クライス」は同じく「輪」を意味する。プログラムは混声・女声・男声合唱曲、典礼聖歌、室内楽曲、オルガン曲など多岐にわたり、高田作品の真髄を味わえるとの評価は高い。

